「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1/2

	1/2		
団 体 名	スポーツ GOMI 拾い in おたる北運河実行委員会		
事業名	スポーツ GOMI 拾い in おたる北運河		
実施期間	令和元年8月10日 10:00~12:00		
事業の目的及び 期待する効果	2019 年 2 月 17 日に石山町で開催された国際スポーツ雪かき選手権 (スポ雪)では、北稜中学校、手宮連合町内会の協力のもと、地域住民と市内外から集まった多数の参加者が一致団結して町内の除雪に取り組んだ。競技として興味を持った参加者がほとんどであったが、高齢者との交流を通じて、地域の課題に気付き、自主的な行動に結びつけることができる。スポ雪の夏バージョンとして、スポ GOMI を小樽市内各所で開催することによって、協働への意識を高めるとともに、地域コミュニティの活性化を目指す。		
実施額	事業費 306,512 円 ^{助成額} 249,332 円		
事業内容	事業名:スポ GOMI in おたる北運河 競技エリア: 手宮公園・北運河を含む手宮地区(末広町、梅ヶ枝町、石山町、錦町、豊川町、色内 1~3 丁目、手宮 1~3 丁目) (1) 小学生の部 手宮中央小学校周辺及び手宮公園遊歩道 (2) 中学生の部 北陵中学校及びいしやま公園周辺 (3) 一般の部 運河公園周辺(北運河エリア)及び錦町参加チーム及び順位: (1) 小学生の部: 参加人数32名 優勝:オール手宮サンライズ A 準優勝:オール手宮サンライズ B 3位: 手宮中央 PTAJr.withT 4位:オール手宮サンライズ C 5位:オール手宮サンライズ D 6位: 児童クラブ A 7位: 児童クラブ B (2) 中学生の部: 参加人数24名 優勝: ガチ勢 準優勝: ウルトラ GOMI 拾いボーイズ 3位: 森のコロッケ4位: 旧参勤交代武家諸法度 5位: ロブスターのまち (3) 一般の部: 参加人数22名 優勝: 北海道科学大学+Yado 準優勝: 北洋銀行 3位: 小樽市役所4位: GOLDSTONE 5位: ぼんず 収集したゴミの量: (1) 燃やせるゴミ: 16.9 キロ(2) 燃やせないゴミ: 20.45 キロ(3) ビン・缶: 8 キロ(4) ペットボトル: 3.9 キロ(5) たばこの吸い殻: 1.75 キロ(6) ペットボトルの蓋: 259 個		

◎事業の日程について

月日	内容	想定事業効果	事業効果
		(参加人数等)	(実績)
8月10日	スポ GOMI in おたる北運河	115 人	101 人

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

(1)開催回数について

複数回の開催を目指したが、総連合町会理事会を通じて周知するに留まった。「各町内会長の反応は悪くはない」と報告を受けているが、行動に繋がらない理由を探す必要がある。

一回の開催に留まったが、手宮中央小学校 PTA の協力もあって、前年度よりも競技エリアを拡大して実施できたことは大きな前進であった。

(2)参加人数について

参加者目標 100 名のところ 78 名、スタッフ目標数 15 名のところ 23 名が参加した。桜陽高校放送局の生徒が司会と動画撮影を担当。札幌学院大学、小樽商科大学、北海道科学大学の学生が審判員として参加するなど、高校生、大学生の活躍によって、大会を成功裏に終わらせることができた。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

中学の部で入賞したチームのキャプテンから、「通学路に多くのゴミが捨てられ、排水路にもゴミが溜まっている状況に驚いた。これらも自分たちが住んでいる地域の美化に努めたい」とコメントがあった。スポ GOMI の目標であった、気付きから協働への意識改革に繋がった。

当日、手宮中央小学校児童クラブのスタッフから飛び入り参加の要請があった。この活動への理解と共感から生まれた行動であり、参加してくれた小学校低学年の子供たちは、楽しそうにゴミ拾いに参加してくれた。このような積み重ねが協働の意識へと繋がるはずだ。

閉会式では、石山町会荒谷会長、手宮中央小学校谷本校長から、手宮地区の現状と課題、参加者への労いの言葉をいただいた。参加者の心に響いていたようだ。

3. 今後の事業について

前年度もご協力いただいた北陵中学校と手宮地区連合町会に加えて、今年度は、手宮中央小学校及び PTA の方々が加わってくれたお陰で、地域住民、特に小学生の参加が増えたことは大きな成果であった。

手宮地区でのスポ GOMI は、昨年に続き二度目の開催。そして来年2月には前年に続き 国際スポーツ雪かき選手権を開催することが決まっている。夏にスポ GOMI、冬にスポ雪を 実施することで、地域コミュニティを活性化するエンジンとしての役割を果たしていきながら、 このモデルを小樽市全域に普及させることが今後の大きなテーマである。